

第49回全国ミニバスケットボール大会

マンツーマンコミッショナー講習会 参加報告書

記

1. 期日:

2018年3月27日(火)～30日(金)

2. 場所:

群馬県高崎市 高崎アリーナ

3. 講師:

- ・日本バスケットボール協会 競技統括グループ 育成普及担当マネージャー
山本 明 氏
- ・日本ミニバスケットボール連盟 技術委員長
牧野 広良 氏

4. 参加者:

各ブロックより受講生 38人

5. 講習内容:

- 第49回全国ミニバスケットボール大会のための講習(3月27日(火))
 - ・マンツーマン推進の目的
 - ・マンツーマン推進の根幹
 - ・コミッショナーの心得
 - ・全国大会における推進のポイント
 - ・基準規則を軸とした判定の統一
 - ・事象研修
 - ・スポーツマンシップの育成(リスペクト運動)
- マンツーマン推進の基準規則の変更点【4月1日以降】(3月27日(火))
- コミッショナー運営(3月28日(水)～30日(金))
 - ・実習(メインコミッショナーとサブコミッショナー)
 - ・試合後の研修と反省

5. 所感

『2017年の集大成と2018年度への継承』という、牧野氏の強いメッセージからスタートした本講習会であったが、初心に立ち返り、謙虚に学ぶことだけでなく、その目的と根幹を意識し、コミッショナーの責任と重要性を再確認できた4日間であった。

実習では、講習生全員が、

- ・伝達の円滑性
- ・根拠の裏付け(振る勇気、振らない理由)
- ・タイムリーな判定(最初の事象を見逃さない)
- ・『FEEL THE GAME』

を、強く意識してコミッショナーを行い、その後のディスカッションでも非常に内容が濃く活発な意見交換ができたことは、本当に成長でき、今後の活動に大きく役立つ有意義な経験だったと思う。

また、本大会では、『マンツーマン推進から発展するスポーツマンシップの育成(ミニバスの精神)』ということで、コミッショナー活動とは別に、試合全体を見渡す形でプレイヤーや指導者の著しくミニバスケットボールの精神(友情・ほほえみ・フェアプレイ)から逸脱している言動・行動があった場合は、コミッショナーの報告用紙に記入することが加えられた。このことにより、審判とのコミュニケーションも増し、マンツーマンの推進以上の責任をもってコートに立つこととなり非常に斬新な取り組みを経験することができた。

本大会や講習会を終えて、私がこれまで自ブロックや自県などでコミッショナーとしての活動の判定の基準や認識を顧みると、本大会との大きな違いを痛感し、反省することが多かった。これは出場チームにも顕著に表れ、注意(黄旗)の段階で指導者が気づき、修正できるチームがいる一方で、警告(赤旗)内容に対し、コミッショナーが説明しても理解が得られない(なぜ旗を振られたか分かっていない)チームが多かった(出場していた数チームに試合後の感想を聞いたところ、「自県では一回も旗を振られたことがなかったのに、これでよいと思っていたが、まさかこんなにたくさん赤旗を振られるとは思わなかった」との返答が多くあった)。これは、出場チームのこれまでの取り組みはもちろんのこと、各県のマンツーマン推進に対する意識と徹底のレベルを問われ、突き付けられる結果であったと痛感している。また、本大会の基準を『2018年度への継承』とするために本大会の経験者が危機感を持って自ブロック、自県に展開しなければならないと考える。

また、4月1日より更なるルール改正があったことで、試合におけるコミッショナーの重要度が増した。そこまで強くマンツーマンの推進と徹底を要求されることを理解し、自ブロック、自県に展開していきたいと思う。

第48回全国ミニバスケットボール大会(前回)

- ・試合に於ける赤旗(警告)の状況 : 約30回
- ・試合に於けるテクニカルファウルの状況 : 7回

第49回全国ミニバスケットボール大会(今回)

- ・試合に於ける赤旗(警告)の状況 : 93回
- ・試合に於けるテクニカルファウルの状況 : 15回